

基礎有機化学会 若手オンラインシンポジウム (第5回) プログラム

2025年11月14日(金) 9:20-15:45 (オンライン開催) 講演9分・質疑応答5分・交代1分

講演番号: 演題

発表者名(登壇者名には○を、講演賞対象の登壇者名には☆を付してあります)・所属

時間	A会場	B会場
09:20-09:30	開会式 (A会場にて実施) ▶ 基礎有機化学会会長：豊田真司先生 (東京科学大理学院) ご挨拶 ▶ 実行委員会からの連絡事項	
	座長：須賀健介 (大阪大学)	座長：小野公輔 (東京科学大学)
09:30-09:45	A-01: 分子内環化反応を駆使したテトラフェニルアンモニウム塩の合成 ☆○戸口雅晴・濱脇康佑・榊原陽太・村上慧 (関西学院大院理工)	B-01: Dynamic Circularly Polarized Luminescence Switching Enabled by Cyclodextrin Flexibility ☆○酒谷朋宏・重光孟・高司健太郎・木田敏之 (阪大院工)
09:45-10:00	A-02: 連続的分子内アルキン環化反応による2つの七員環が縮環したBODIPYの合成 ☆○鈴木恵太・大橋史夏・高野秀明・忍久保洋 (名大院工・名大高等研究院)	B-02: ジメチルジヒドロピラジノ[e]ピレンを基盤とした光と酸に応答する水素結合性有機フレームワーク ☆○前田怜聖・桶谷龍成・久木一朗 (阪大院基礎工)
10:00-10:15	A-03: 新奇なかさ高いRind基の開発とテトリレンの合成研究 ☆○今井瑞紀・上野優斗・太田圭・松尾司 (近畿大理工)	B-03: 単一成分による表面キラルCOFの合成：メチル置換基のCOF形成への影響 ☆○金子隼輔・町田欣士・田原一邦 (明大院理工・明大理工)
10:15-10:30	A-04: アニオン性2-ホスファアレンを活用した種々の低配位リン化合物の合成 ☆○野元彬弘・菅又功・笹森貴裕 (筑波大院数理工質・筑波大数理工質・TREMS)	B-04: キラルなビフェニル縮環プロペランを構成要素とした分子集合の構築 ☆○梶原頼・岡田聖奈・加藤研一・大谷俊介・生越友樹 (京大院工・金沢大WPI-NanoLSI)
10:30-10:50	休憩 (Discussion Room 併設)	

	座長：張本尚 (分子研)	座長：加藤研一 (京都大学)
10:50-11:05	A-05: 段階的な歪み構築による多層積層型ヘリカルナノグラフェンの合成 ☆○市村彪・森田楓人・清水亮太・岸田裕子・植草秀裕・田中健 (東京科学大物質理工・東京科学大理)	B-05: 芳香環チューブ-in-カプセルが示すハイブリッドホスト機能の開発 ☆○木藤大翔・青山慎治・Lorenzo Catti・吉沢道人 (科学大・化生研)

11:05-11:20	A-06: π 単結合性一重項ジラジカルの光反応 ☆○村田光与・島原留美子・安倍学 (広島大院先進)	B-06: 沈殿誘起型自己集合を利用したベンゾイン縮合によるジアステレオ・位置選択的マクロ環化への反応溶媒や基質のアルキル鎖長の影響 ☆○田野井悠・福本淳也・河合英敏・小野公輔 (科学大理・東理大理)
11:20-11:35	A-07: PCET を発現する水素結合型錯体の合成 ☆○中ノ瀬莉子・久保孝史 (阪大理)	B-07: 大環状金錯体への自己集合を利用した三分岐オリゴフェニレン骨格を含む三次元炭素ナノ分子の合成 ☆○楠見健士朗・河合英敏・土戸良高 (東理大理)
11:35-11:50	A-08: Stacked-Ring Antiaromaticity: 環状共役ラジカルの積層二量体が示す反芳香族性の実証 ☆○今中航・遠山啓史・齊藤尚平・山下健一 (阪大院理・阪大 ICS-OTRI)	B-08: 13 族金属を含む二核三重らせん錯体の合成と励起三重項生成能の評価 ☆○梅木智弥・小西悠斗・江原巧・宮田潔志・恩田健・星野友・小野利和 (九大院工・九大院理・九大 CMS)
11:50-13:30	昼休憩 (Discussion Room 併設)	

	座長：小西彬仁 (大阪大学)	座長：高野秀明 (名古屋大学)
13:30-13:45	A-09: Rh 触媒による環化反応を鍵とする反芳香族ピロール縮環アセンの合成と物性評価 ☆○北嶋里空・高野秀明・忍久保洋 (名大院工)	B-09: アクティブな空孔を有するピラー[5]アレーンの準安定チャンネル結晶構造の形成とその吸着特性 ☆○片桐隆我・安澤樹一・大谷俊介・加藤研一・生越友樹 (京大院工・金沢大 WPI-NanoLSI)
13:45-14:00	A-10: デュワー型 9,10-ジスチバアントラセンの合成と構造 ☆○大辻駿介・正田浩一朗・笹森貴裕 (筑波大院数理・筑波大数理物質・TREMS)	B-10: デュアルポケットアミドシクロデキストリン二量体の選択的アニオン認識 ☆○遠藤智也・中村貴志 (筑波大院数理物質・筑波大数理物質・筑波大 TREMS・筑波大 TIAR)
14:00-14:15	A-11: 2,7-ジアザトリプチセンの合成と光学特性および結晶構造 ☆○橋本有裕・井上僚・久保和也・吾郷友宏 (兵庫県立大院理)	B-11: かご形化合物から派生する SOMO-HOMO 逆転ラジカルカチオン ☆○和田佳成太・中谷健人・大垣拓也・松井康哲・婦木正明・小堀康博・麻田俊雄・池田浩 (阪公大院工・阪公大工・阪公大 RIMED・神戸大分子フォト・阪公大院理)

14:15-14:30	<p>A-12: N 中心 6-7-6-6 縮環型ヘリカルアクリジニウムの創出と物性調査</p> <p>☆○中村洲斗・川口聡貴・西村悠汰・張本尚・長谷川淳也・鈴木孝紀・石垣侑祐（北大院理・分子研・北大触媒研）</p>	<p>B-12: イオンペアリングによる荷電π電子系ジラジカルの磁性制御</p> <p>☆○小林大斗・久保孝史・前田大光（立命館大生命科学・阪大院理）</p>
14:30-14:50	休憩（Discussion Room 併設）	

	座長：村井 征史（名古屋大学）	座長：福井識人（名古屋大学）
14:50-15:05	<p>A-13: N-アントリルアミド色素の脱プロトンを駆動とする蛍光スイッチング</p> <p>☆○有本唯馬・山科雅裕・豊田真司（科学大理）</p>	<p>B-13: Photoresponsive Polyester with Movable Cross-links for On-Demand Enzymatic Degradation</p> <p>○Xin Zhou, Jiaxiong Liu, Kenji Yamaoka, Ryohei Ikura, Akihide Sugawara, Hiroshi Uyama, Yoshinori Takashima（Graduate School of Science, The University of Osaka, Graduate School of Engineering, The University of Osaka, OTRI, The University of Osaka）</p>
15:05-15:20	<p>A-14: テルフェニル骨格を有するアルキニル配位子を用いた銀4核/金4核クラスターの合成と銀2核金2核ヘテロ金属クラスターへの変換挙動の調査</p> <p>☆○佐伯宏貴・河村虎之介・後藤敬・小野公輔（科学大理）</p>	<p>B-14: フェナレニルラジカルの発光・開拓</p> <p>○高妻卓利・周韋沂・久保孝史（阪大院理）</p>
15:20-15:35	<p>A-15: 発光性フロログルシノール誘導体による多様な構造の溶媒包接結晶</p> <p>☆○岩崎敦也・伊藤傑（横浜国大院理工）</p>	<p>B-15: Substituent effect on the electronic ground state (singlet vs triplet) of fluorene cations</p> <p>○Sunando Santra, Manabu Abe（Graduate School of Advanced Science and Engineering, Hiroshima University）</p>
15:35-15:50	<p>A-16: 環状[n]フェニレンスルフィド/ポリスチレン複合材料の力学特性調査</p> <p>○西田幸輝・以倉峻平・山岡賢司・福永悠・高島義徳（阪大院理・阪大 FRC・DIC 株式会社・阪大 OTRI）</p>	<p>B-16: メチレンケテンイミンの簡便合成と不飽和化学種との反応</p> <p>○伊藤慧典・小池太智・石田真太郎・岩本武明（東北大院理）</p>
15:50-16:05	<p>A-17: お椀型大環状イミンを用いた多核錯体の形成挙動</p> <p>☆○池上耕亮・秋根茂久（金沢大院自然・金沢大 NanoLSI）</p>	
16:05-16:40	休憩（Discussion Room 併設）	

16:40-17:10	閉会式（A 会場にて実施） <ul style="list-style-type: none"> ➤ 協賛学会・協賛企業（日本化学会、王立化学会、東京化成工業株式会社）からのご紹介 ➤ 優秀講演賞・優秀ディスカッション賞受賞者の発表 ➤ 第 36 回基礎有機化学討論会・実行委員長：秋根茂久先生(金沢大 WPI-NanoLSI・金沢大院自然)ご挨拶
17:10-	Discussion Room

※Discussion Room のご案内

講演時間内では行えなかった議論を行う場として Discussion Room を設けます。具体的には、A・B 両会場にて、それぞれ講演番号に対応するブレイクアウトルームを作成します。また、これとは別に自由討論のブレイクアウトルームを設けます。休憩時間・昼休み・シンポジウム後にご利用ください。シンポジウム後、約 30 分程度まで Zoom 会場はご利用いただけます。

※発表者の皆様へのお願い

休憩時間・昼休み・シンポジウム後（およそ 20–30 分程度）の可能な時間帯に、上記の Discussion Room にご入室ください。特に発表直後の時間帯にご滞在いただけると議論が活性化されると思います。